

胞

金沢詩乃
五行歌集

前書きラスト

この「胞」で4部作ラストになる。

行き場のない性は寂しい。

着飾って、仕事して、美味しいものを食べて吞んでも、それは変わらない。

日常の隅っこで干からびていて、クイックルワイパーでざりざりとかき集めたような歌からそれが伝わればいいのではないかと思う。

あ、あてこの歌集を見て「五行歌」ってなんだ？と思われる方もきっと多いと思われます。後記にささやかですがちょっとした説明と五行歌の公式サイトのURLを載せておきますので興味ある方は是非ご覧になってみてください。



逆光の月

蝶になるの

研がれた現実リアルの

切っ先から

翔び立つ

蝶に

我が身を

削つて削つて

舞い上がり逝く

にくしみは

どくどく

嘔吐の声

響かせ

人それぞれの

夜が

匂う

壊死した

精神^{こころ}を

隠しております

バイオリズムの

交差する場所

惑星の列から

離れて

わたし

逆行し続ける

月となる

ひとひらの

羽根になる夢をみた

誰の手からも

すり抜けて

せつなかつたなあ

慰
み
の
時



水垢すら

乾きききつて

久しい

排水溝に

指で触れてみる

使われていない

おんな

の部分

そこに潜む

答えを摩^{さす}る

乳房の

たるむがまま

大の字に

暑さ薄れゆく

部屋で

あああ

独り身になお

月満ちて

下腹の

けだるさよ

汗ばみ

横たわる

生と

死

渴いた私の中でさえ

ひとりきりの

愉悦

ベッドの真上へ

何度も何度も

尽き貫く

遠ざけたもの

恋しくて

啼^なくの

気持ちいいわけ

じゃ ないわ

呑むか

呑まれるかの

ぎりぎりで

吐き続けるような

かなしさ

時折

自分の汚れつぷりを

振り返る

泣くか笑うかは

そのとき次第で

深夜番組

濡れ場の

リフレイン

あたしの朝は

まだ明けない

落日

またもやの拒絶に

あの言葉が

甦る

おまえなど

生まねばよかつたよ

呼吸も

何も

語るなと言おう

いらなくなつた

人形のように

固皮の裏の

果肉をそつと

スプーンで

えぐるような

一言をもらおう

休み時間

隠れた汚辱を

そつと拭き取り

トイレに流して

やり過ぎす

人を信用

するな

と言われて育つた

私の闇など

わかっではいけないよ



お
ん
な
であれ

紫煙の

甘さ

接吻くちづけより

先に

覚えた味だ

真冬日

静かな街の一角で

したたる

互いのいのちを

分け合って

カーテンの隙間から

雪明かり

昼さなかの

情事すら

すずやかに

結局

愛以上のものを

得たのかもしれない

陽にしみる肌を

撫でながら

ピーナツバター

昨夜の

肌のおおいを

思い重ねて

パンに塗る

仁王立ちで

いのちを

産み落とす

おんな

であれ

それにしても十数年、よくもまあ地団太踏んだり喚いたり転がったりしていたことよと
4部作を終えてしみじみ思う。

振り返る暇が出来た現在こそ平穩ではあるけれども、だからこそ置いてきたものの代替品という
ものは

そう簡単には見つからないというのが改めてわかるようになった。

でもいっそ空白のままでもいいのかもしれない。

思いもよらぬところから何かがふっと飛び込んで住みつくこともあり得るだろうから。

今回歌集を出した際の静かなる反響もそれにあたる。かなりの数がダウンロードされているので
i-phoneとかでブラジャーとか乳房とかの歌を見てるんだらうか、電車とかでチラ見されてたらど
うしようとか

いらん心配をしてみたり（笑）

そういう妄想？で楽しめる分、今回こうして書き溜めてきたものを形にできた意義があったとい
うものだ。

ともあれ閲覧してくださった方々に感謝を。

2011年 1月9日 金沢詩乃

～五行歌について～

一行の字数音数は問わない分、その人なりの呼吸を添わして思いを表現することが出来る
新しい短詩文芸が五行歌です。

五行の分かち書き以外はこれといって制約はなく間口が広いことから年齢問わず楽しめるのが五
行歌。

近隣の歌会や月刊誌購読の受付、さまざまな方が歌集を出版しておられるので興味をもたれたら
下記のサイトへご訪問ください。

五行歌公式サイト <http://5gyohka.com/>